



①トリックはアイススケートのフィギュア競技に似た種目。さまざまな演技で得点を競う ②大きな水しぶきをあげて右に左にターンするスラローム ③河川敷で大声援を送るチームメイト

ロープをまたいだり、さまざまな技を行ないます。足にハンドルをかける「トーホールド」や、宙返りをする「フリップ」など、難易度が高いほど高得点。手堅く点数を取るか、リスクを恐れず大技に挑戦するか、

空中高くジャンプして飛距離を競う花形競技です。本大会では水面のジャンプ台は高さ1・5m。モーターボートの最高速度は男子が時速54km、女子が51kmですが、選手は長い助走で大きく回り込み、振り子の原理で加速するため、実際のスピードは70〜80kmに達します。トップ選手は40m級の飛距離が出るので迫力満点。ただし、着水して滑走できなければ失敗です。3本飛んだうち、最も長い飛距離が記録となります。

大会の舞台は常陸利根川
前日の大雨もあがり、青空が広がり出した6月1日早朝、日の出とともに水上スキー競技がスタートしました。場所は逆水門から約1・7km上流の常陸利根川（横瀬地内）。2日間にわたって競技が行なわれる「学連チャンピオンシリーズ」と呼ばれる大会に、全国の大学10校から153人がエントリーしています。水上スキーとは、モーターボートに引っ張られて水の上を滑るスポーツです。競技は3種目あり、1日目は、滑りながらアクロバティックな技を繰り出す「トリック」と、選手の姿が一瞬隠れてしまうくらい大きな水しぶきをあげて華麗にターンをする「スラローム」。2日目は空中高く飛ぶ「ジャンプ」で、そのスピードと高さ思わず悲鳴をあげてしまうほどの迫力です。

水上スキーの歴史は意外と古く、初めての全国大会（第1回全日本水上スキー選手権）が開催されたのは70年近く前のことです。実は神栖市の常陸利根川も1973年と1984年の2度、全国大会の舞台となっています。他にも、1984年から3年連続で全日本学生水上スキー選手権（インカレ）、1980年代以降は新人戦が20回以上も行なわれるなど、数多くの大会が開催されてきました。そしてインカレの前哨戦となる学連

チャンピオンシリーズ第1戦・第2戦は、いまでは神栖にすっかり定着しています。
目を奪われる技・スピード・迫力
水上スキーは身近なスポーツではありませんが、私たちの地元で注目の大会が開かれているのなら、見に行かなければもったいない！そこで、全日本学生水上スキー連盟理事の守谷敦さん・西川潤さん、同事務局長の土屋信太郎さんに、観戦を楽しむツボを教えてくださいました。
「トリック」の見どころ！
往路20秒・復路20秒の計40秒の間に、疾走するモーターボートにつな

その戦略が見どころです。
「スラローム」の見どころ！
水上にジグザグに並んだ6つのブイの外側を回りまです。モーターボートの最高速度は、男子が時速58km、女子が55kmとかなりのスピード。往復で転ばずに何個のブイを回れたかで順位を競います。上手な選手ほどターンの時に派手な水しぶきがあがるので、華があって、映える種目です。一方で、一発勝負のため実力のある選手が失敗して波乱が起きることも。その緊張感も魅力です。
「ジャンプ」の見どころ！
空中高くジャンプして飛距離を競



西川さん

守谷さん

土屋さん



常陸利根川と逆水門

特集

決戦は

常陸利根川

水上スキー学連チャンピオンシリーズ開幕

あまり身近ではないけれど、実際に見るとスピードや迫力に魅了される水上スキー。40年以上前から多くの大会が開催されてきた常陸利根川に、今年も学生たちが集合しました。この大会を通して、競技の魅力や見どころをご紹介します。

神栖ディスカバリー

File 13